

平成 22 年 2 月 20 日



しほり
森づくり集団「**葉**」事務局通信 Vol.17 号

【今月の活動報告】 【次回の活動予定】 【今月のレポート】 【お知らせ/募集】 【編集後記】



2010年2月7日(日) 三芳フィールドの住人(鳥)です。

【今月の活動報告】

2月7日(日)10:00より

三芳フィールド作業

参加者 / 小林、神座、渡部、武田、吉田ひ、緑川、豊島、田中、吉田あ
北村(行)、北村(真)、(敬称略)

今年も昨年に引き続いて、巣箱の注文があり、その組み立て作業を参加者で行った。昨年参加した、ふじみ野市環境フェア - で販売した巣箱の制作時に今回の注文を見越して、巣箱づくりに必要な材料を既に揃えてあったので、今回は三芳フィールドにて組み立て作業をおこなった。



森林内での組み立ては、地面が安定せず、電動工具も使えない状況下での組み立て作業となり、参加者の皆さんには、大変ご苦勞を掛けてしまいましたが、なんとか製品として出荷できる「菜 巣箱」が完成しました。



作業終了後に三芳フィールドに2個の巣箱を設置しました。次の作業でこのフィールドに来るのが楽しみになりました。巣箱は、三芳フィールドの他に第3フィールドや豊島さんの草南山荘にも設置頂く予定です。



森林保全活動担当 吉田ひ

【次回の活動予定】

3月7日(日)10:00より

第3フィールド作業

今回は第3フィールドにも巣箱を設置します。
通常作業に加えてシイタケのほだ木の準備を行います。

作業参加希望者は保険の手続きの都合上、**3月5日まで**に事務局にお知らせください。

森林保全活動担当 吉田ひ

4月10日(日)10:00より

研修観察会 渡瀬遊水地

森づくり集団「栞」春の研修観察会
渡良瀬遊水地の自然と歴史を学ぶ

今回の研修観察会は、埼玉・群馬・栃木・茨城4県にまたがる大湿地・渡良瀬遊水地を訪れます。見どころは湿地植生を中心とした豊かな自然と、足尾鉍毒事件の悲劇の村・旧谷中村の遺跡。

春の一日、大遊水地散策を楽しみながら一緒に学びませんか？

記

日 時 : 4月10日(土)10:00~15:00(少雨決行)

集合時間 : 9:50 am

集合場所 : わたらせ自然館 群馬県邑楽郡板倉町大字海老瀬 4663-1 Tel:0276-82-1935
クルマ乗り合わせか電車で集合ください。(東武日光線板倉東洋大前駅東口から徒歩5分)
当館には渡良瀬遊水地の説明展示物、ビデオ放映などあり。早く着いた方は時間をお潰してください。9時開館。

移 動 : 遊水地内駐車場には、クルマ乗り合わせで移動します。
クルマ提供者は後日調整

予定コース: ウォッチングタワー 旧谷中村役場跡 旧谷中村神社・寺院跡
葦原観察 谷中湖周辺道路 谷中湖底干潟(干し上げ中であれば)
駐車場 (ウォーキングというよりも観察を中心に)

その他 : ・遊水地内は売店等はありません(自販機はあり)。弁当など各自ご用意ください。
・野鳥観察も期待できます。双眼鏡などもあればご用意ください。

参加費 : ￥500 (保険など)

申し込み〆切 : 3月20日(土) 緑川事務局長まで

担当:豊島・緑川

【今月のレポート】

森林総研のプレリリースにこのようなレポートが記載されていました。
以下、森林総研のレポートの一部を添付いたします。

暗い森で生きる日なた好きの低木 ～草から木へ変身するニワトコ～

森林総合研究所は、森に生きる低木種の研究から、光環境に応じて草から木に姿を変える植物の生存戦略を世界で初めて明らかにしました。

ニワトコは日なたを好む低木ですが、暗い森の中でもしばしば見かけます。実を食べた鳥のフンと共に広くまかれる種子が、森ではわずかな明るい場所に偶然落ちて成長するのだと、これまで考えられてきました。しかし森林総合研究所の調査により、ニワトコの子供(実生)が、暗い森の中で、まるで草のように柔らかい茎を出しては枯らすのを繰り返し、忍耐強く生き続けること、また周りの高木が倒れるなどして明るくなると、その実生の茎が木の幹に変化して素早く高く伸び、花を咲かせることなどがわかりました。さらに数理モデルによる一生の解析から、ニワトコが成熟した森の光環境によく適応し、生活の途中で草から木へと変身する生存戦略を持つことを明らかにしました。

この成果は、樹木のユニークな生き方を見だし、植物でこれまで知られていなかった生活史を新たに解明したとして、アメリカの学術雑誌である *Ecology* に掲載されました。

以上がレポートの一部抜粋です。

ニワトコ (*Sambucus racemosa* ssp. *sieboldiana*) スイカズラ科の落葉低木です。植物の種子散布方法の一つに鳥による散布があります。このニワトコの実も鳥の大好物で、鳥に食べられることにより種子をいろいろな場所に散布します。

条件の良いところ(光・水条件)に散布された種子は、芽を出し成長できますが、条件の悪いところに散布された種子は発芽せず、もしくは発芽しても枯れてしまうのが一般的です。ところが、このニワトコは更なる戦略を持っていることが判ったそうです。

暗い林床に散布されたニワトコの実生が、未成熟のかたちで多数生育しているのが確認され、そのうちの多くが木の幹を持たず、地上の茎のみが頻繁に枯れては替わり新しい茎を伸ばす多年草のような生活スタイルをとっているそうです。そのおかげで、エネルギーを小さく保ち少ない光資源で生き続け、暗い林床でも生存率が高いのだそうです。そして樹冠にギャップができて光が差し込むようになると、実生の茎は直ちに木質化した幹に変化し、急成長することが確認されたそうです。

つまり、ニワトコの戦略は、「暗い林床で草本として待機し、ギャップによって小さな光を見つけると木本に変身し、他の樹木よりも素早く成長してたわわに実を付け種子散布を行い、数年後にまた樹幹が覆われると枯れてしまう」という一生をおくること。

ニワトコの生活史が成熟した森の林冠環境によく適応していることを示すとともに、森に生きる植物のこれまで知られていなかった生存戦略のひとつを明らかにしました。私たちは植物を、草である、木であると分類して、それを客観的な見方と考えます。しかし生涯の途中で草から木へ変わるようなニワトコは、この分類が植物の生活史の一瞬だけを捉えた、恣意的な発想なのかもしれないことを教えてくれます。

このようにレポートは締めくくっていました。

世の中には、まだまだ解明されていないことがたくさんあっておもしろいですね。

ニワトコは、私達のフィールドでも確認されています。今度じっくり観察してみてください。

私たちが手入れをすることによって林床に光が入り、ニワトコがニョキニョキと急成長してしまうと「ニワトコの森」ができてしまうかもしれませんね。

自然回復度調査担当 吉田あ



アオジ 2010.1.4 撮影 北本にて

【お知らせ/募集】

参加者募集のお知らせ

森づくり集団「^{しほり}菜」は、毎月第1週日曜日に所沢下富のくぬぎ山及び三芳町で里山の手入れをおこなっています。
会員のほとんどが森林インストラクターの資格を取得し、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。
私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをして、経過を観察し新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。
また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などの企画計画していますので、興味のある方はぜひご参加下さい。

連絡先は下記事務局まで

編集後記

1月は暖かい日もありましたが、2月は本当に寒さが身にしみます。でも雑木林の中は外が強風で空が茶色に染まっても、穏やかで作業が出来ます。
待ち望んだ3月が春をつれてやってくるでしょうか？

弥生「木草弥や生ひ月」(草木がいよいよ生い茂る月)なのだそうです。
3月3日は雛祭り、女の子の健やかな成長を願う行事として華やかに祝いながら春を待つ。
幾つになってもお雛様を出す行事はうきうきします。我が家でもやっと欲しかったお雛様がやってきました。飾り付けをしながら思わず顔がほころびます。お下がりのお雛様ですが愛しみ、しばし幼い日を顧みます。

緑川



ルリビタキ
2010.1.4 撮影 北本にて

季節の言葉

七十二候(しちじゅうにこう)・・・二十四節気をさらに5日づつ、初候・次候・末候に分けて、季節の動きや動植物の変化を知らせたもの。

啓蟄 初候 3/6 蟄虫啓戸 …冬眠していた虫たちが出てくる。
次候 3/11 桃始笑 …桃の花が咲き始める。
末候 3/16 菜虫化蝶 …モンシロチョウは羽化する。
春分 初候 3/21 雀始巢 …雀が巣を作り始める。
次候 3/26 桜始開 …桜の花が咲き始める。
末候 3/31 雷乃発声 …遠くで雷の音が聞こえる。

あ

森づくり集団「^{しほり}菜」事務局

アドレス info@mori-shiori.sakura.ne.jp

ホームページ <http://mori-shiori.sakura.ne.jp/>

事務局長 緑川睦子